

「仲間がいたから」 利尻町立利尻中学校3年 菅原 光海美

三年間の中学校生活も残り半年をきった。姉や兄が同じ学校を通っていたということもあり、見覚えのある校舎や顔なじみの先生、あまり不安をもたずに安心して中学校に入学することができた。ここ周辺には中学校が1つしかないため、小学校で同じだった友達は中学校でも同じ友達として過ごすことができた。これも私が安心して入学できた理由の1つだと思ふ。

私は中学校に入学したら勉強は一旦おいておき、部活に励もうと思っていた。小学校の頃から毎日部活をすることに憧れていたため、バレー部に入部してからは、「きつい」というよりも「楽しい」のほうが勝っていたような気がする。私はあまり関わったことがない人と自然に壁を作ってしまいがちなので、先輩と馴染めるか不安があった。しかし、自分と一緒に入部した友達が積極的にハキハキと明るい雰囲気を作り上げてくれたので、私はすんなり馴染めることができたと思ふ。もちろん先輩が馴染みやすく優しい人だったということもある！部活では自分の成長に繋がるような機会が数多くあった。例えば、私はレフトだったのでラリーが続いたときや、シャットをされたとき、「先輩に迷惑をかけているな」と思って落ち込んでいた。しかし、先輩は前向きな声をかけて盛り上げてくれた。よく「チームだから」という言葉を聞くが、これを通して理解できたと思ふ。私と同じ考え方をしている後輩や友達に伝えていこうと思った。大会や選抜を通して他校の知らない人や先生、気になっていた先輩など、色々な人と一緒にバレーをすることができた。また、これを機に交流を深めることができた。これは私と関わってくれた幅広い人たちのおかげだと思ふ。ありがとうございました。

一方で学校生活では、小さいころから同じだった友達と一緒に、小学校とは少し違った環境になることが楽しみだった。1年生の半年間はクラスの中で緊張感がすごくあった。ふざけたことをして指導で授業がつぶれてしまったこともあり面白かった。色々なことがあったが、学校行事ではそれぞれがそれぞれの役割を果たし、回数をこなすうちに計画の立て方や進め方が安定し、よりよいものをつくりあげることができた。私はどちらかというとなら頼ってしまっただが、これも小さいころからずっと同じだったということがあったからこそ成り立ったんだと思ふ。私は部活でも学校生活でも充実した日々を送れた。これも関わってくれた人たちのおかげだと思ふ。ありがとうございました。これからもよろしくお願ひします。

様々な先生は「この3年間はあるという間だからな」と言っていた。私は疑っていたが、本当にこの3年間はすごくあるという間に感じた。気がつけば卒業まであと半年をきった。高校ではみんな同じとは限らないが頑張っていこう！